

日韓トンネル

日韓中・国際シンポジウム開く

21兆円の経済効果期待

日本と大陸を連結する「日韓海底トンネル」の実現に向けて調査・研究が続いている国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会(会長、佐々保雄・北海道大学名誉教授)は十七日、東京・平河町の麹町会館で「東北アジアの開発と国際ハイウェイ・日韓トンネルの役割」と題し、日韓中・国際シンポジウムを行った。大手建設会社および運輸関係者ら約五百十人が参加。同シンポジウムは、同研究会の設立十周年を記念したもので、今回で二回目。(財)亜細亜技術協力会と日韓トンネル研究専門委員会の共催で韓国、中国から関係者が招かれた。

シンポジウムでは市川正巳氏(元筑波大学副学長、日韓トンネル研究会顧問)を司会者に、吉田信夫氏(福岡大工学部教授)、朴明燮氏(韓国・釜山水産大貿易学科副教授)、朱振中氏(中国・河北省交通庁副庁長)がそれぞれの分野で同プロジェクトの重要性についてアプローチした。

菅原喜重郎・衆院議員が「日本の国際貢献の責務が

ますます重くなる中、この民間の企画を早く国家プロジェクトに乗せたい。なんとしても、実現するようがんばっていかねばならない」とあいさつ。

朴氏は、「東北アジアの開発と国際ハイウェイの役割」をテーマに、「東北アジア地域の経済協力が円滑に発展するためには、国際ハイウェイの内陸輸送体制が構築されなければならない。これが、東北アジア経済圏の起爆剤の役割をするであろう」と展望した。

また、朱氏は、「中国河

で、中国政府が国際ハイウェイの一環である、北京・丹東間(九百キロ)のハイウェイ建設を国家計画として決定、経済発展を目指していることを発表。そのうえで、「同プロジェクトには、非常に注目している。わが国の国家計画と一体化させて、二千年前に実現させてほしい」と述べた。

第二部のディスカッションでは、パネリストの三人のほかに、尹世元氏(韓国・成和大総長、国際ハイウェイ研究会会長)、金榮輝氏

(同大理事長)、高冠瑞氏(韓国・釜山水産大教授、国際ハイウェイ研究会副会長)、馮西祿氏(中国・河



日韓トンネル研究会設立10周年記念の日韓中・国際シンポジウム17日、東京・平河町の麹町会館で

北省交通庁科長)、康雄偉氏(同庁所長)により意見交換が行われた。